パンデミック小説特集

新型コロナウイルス感染症により、日本だけでなく国際的に深刻な問題が起きていますが、みなさんは『首都感染』という小説を知っていますか。

この作品は2010年に、高嶋哲夫氏により発表された小説です。

近未来の中国でサッカーW杯の開催中、高致死率の新型インフルエンザウイルスが発生し、感染拡大阻止のため日本の首相が東京封鎖を決断するお話で、内容が現在の状況と共通していることが多く、予言の書なのではないかと注目されています。

新型コロナウイルス感染症の脅威は、まだ収まっていません。もしかしたら、小説の世界と同じように新型ウイルスによる感染症が今後も起きるかもしれません。

この機会に、小説の中で人類はどのようにウィルスと闘い、どうやって勝利してきたのか、『首都感染』を含め感染症を題材にした小説を図書館で借りて、読んでみませんか。

図書館で所蔵しているパンデミック小説

『復活の日』　小松　左京／著　（中央・竹丘図書館所蔵）
『ペスト』　カミュ／著　（中央・駅前・竹丘図書館所蔵）
『首都感染』　高嶋　哲夫／著　（駅前・竹丘図書館所蔵）
『生存者ゼロ』　安生　正／著　（中央・駅前図書館所蔵）
『ホットゾーン　上・下巻』　リチャード・プレストン／著　（野塩図書館所蔵）
『月の落とし子』　穂波　了／著　（駅前図書館所蔵）

Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト

No.40　2020.7

清瀬市立図書館

本の「使い方」
1万冊を血肉にした方法

出口　治明／著
KADOKAWA

「一つでも多くの事が知りたい、知る事で人生は素晴らしい、生きる事は楽しい」という、ココ・シャネルの言葉に感銘を受けた著者の出口氏は、彼女こそ読書の意義を言い当てていると語っています。出口氏は一万冊以上の本を読んだ稀代の読書家で、本は歴史上の偉人と出会え、実体験にも勝るイメージが得られる。また、十代が読書する最高の時であると言っています。

この本で出口氏は良書として約200冊の本を薦めています。この中に気になる本があったら、図書館にリクエストしてみてはいかがでしょうか。

〈駅前図書館　伊藤〉

感情の整理術123（ひふみ）
62年現役を貫けた秘訣

加藤　一二三／著
PHP研究所

『ひふみん』の愛称で知られる元プロ棋士、加藤一二三さんの現役時代の将棋に向かう姿勢が、独特の口調で語られています。一手に7時間をかけ、考えに考えて勝ったという経験は、勝負の深さを知るとともに、将棋の世界に確かな手応えを感じたそうです。誰と戦って負けても、「歯が立たない」「敵わない」と思ったことは一度もないと言います。それは何故なのでしょうか。

90％勝ち目がない将棋をひっくり返して勝つ羽生棋士、言葉が巧みで魅力的な藤井棋士など、様々な方が活躍され注目されている将棋の世界にも触れることができます。

〈元町こども図書館　小島〉

本と踊れば恋をする

石川　智健／著
KADOKAWA

アルバイト禁止の高校に通う十屋龍之介は、お小遣い欲しさに父親の遺した蔵書を母に内緒で売ってしまう。そして思いのほか高く売れたことをきっかけに、古書を見極め売買する「セドリ」になる。

ある日、古書店を訪ねた彼は、店主・朝香の作製した「贋作本」の万引きを疑われる。もしこの本を探し出すことができたら好きな本をあげると言われ、龍之介は本探しを手伝うことに。

朝香に出会い、本を探していくうちに父親に興味を持ち、知らなかった真実が明らかになる。ちょっと切なくちょっと心温まる新感覚のビブリオ・ミステリです。

〈駅前図書館　樫〉

希望という名のアナログ日記

角田　光代／著
小学館

この本は角田光代さんの作家としての人生や、日常が描かれたエッセイ集です。

角田さんは小学生の時に作家になることを決意し、いざ作家になってみたものの書きたいものが書けず、悩みながら仕事の目標を決めていました。目標は年齢と共に変わり続け、しかし、目標が変わったことが結果的に良かったそうです。作家として生きていくという一つの目標があったからこそ、仕事を続けることができた角田さんですが、その目標だけでは挫折していたかもしれないとも言っています。

この本は角田さんが自身の体験をもとに、夢や希望について教えてくれます。

〈中央図書館　根岸〉